

2002

駅のホームの喫煙スペース

Smoking Place at Station

AD 03 石井 聖子
指導教員 比留間 真

1.研究目的

近代の日本は禁煙推奨化傾向にあり、昔は電車の中で煙草を吸うのも珍しくなかったが、日本で国内線が全面禁煙になったのをきっかけに禁煙傾向が高まりだし、どんどん撤去されていく駅のホームの喫煙所に着目した。

一般的な駅の喫煙所は、灰皿が置いてあるだけという粗末なもので、汚く近寄りたがたい雰囲気になっている。

もっと、デザイン性も喫煙所に取り入れるべき、違うカタチの喫煙所を提案できると思った。

2.調査と分析

・喫煙と女性

世界的に見れば喫煙率は減っているが、女性の喫煙率は増加の一途であると言われている。

若い女性の喫煙率は、ここ40年足らずで約4倍増加していて、平成13年度では、約4人に1人が喫煙者というデータがある。

今や、喫煙所ユーザーは男性ばかりではない。近年増えてきた女性喫煙者だが、喫煙所にはあまり見かけることが少ないのは何故かを調査した。

結果、「汚い」「男性ばかりで近寄りたがたい」「行くのがめんどくさい」「吸うなら座って落ち着ける場所でゆっくりと吸いたい」という意見が多くでた。

喫煙所は煙だらけでむさ苦しいイメージだが、環境を変えることでイメージを変え、喫煙者にも受け入れられるような駅の喫煙所を作ることが出来れば喫煙者と非喫煙者の共存が図れると考えた。

3.コンセプトの立案

喫煙所のイメージを変える。
「清潔感」「リラックス」「換気環境」の一新を図り女性にも気軽に使いやすい、喫煙所を提案する

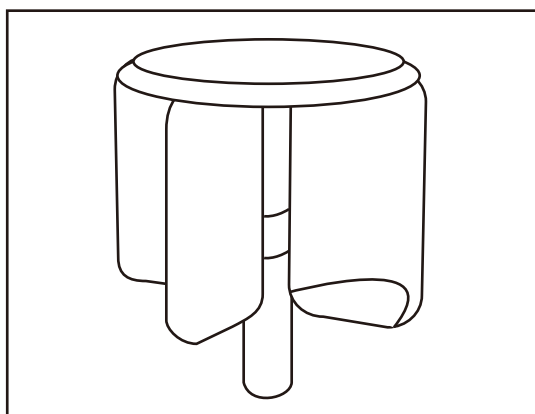
4.デザイン展開

喫煙所は灰皿が置いてあるだけのイメージだが、落ち着いて吸えるように椅子を設置する。椅子は駅のホームであることを考慮し、電車が来る間隔が長時間でないことから、少し腰を掛ける程度の浅目の椅子にする。

5個の椅子が付いている円柱の灰皿を基本の1セットとし、駅のホームの広さ等によっては、椅子の取り付ける数を減らしたり、もう1セット設置するなど駅のホームの広さに応じて対応できるようにする。

一般的には右利きが主流なので灰皿は座ったとき右側になるように設置し、灰皿付近に空気清浄機を取り付けることによって煙を最小限に抑える。夜間は中央の円柱に備え付けてある照明が着くことによってオブジェとしての役割も果たす。

5.完成図



6.結論

今回デザインを考えるにあたって一番考慮した点は、ホームから隔離し、完全に個室にすることなく、如何すれば、煙の流出を抑えつつ、コンパクトな設計になるかということ考えた。

作った結果、もっと座面の形や背もたれ部分には、改良する余地があったと感じた。

また、スタッキングが可能になれば、収納性も増し、普段ただの灰皿としても使用することができ、より様々な場所に設置できるようになると感じた。

7.参考文献

禁煙サポートサイト いい禁煙
<http://www.e-kinen.jp/index.html>

国土交通省:移動円滑化整備ガイドライン